

珪藻土の特性を学ぶ

フォーラムは、北秋田市が産出量日本一である「珪藻土」の特性を広く認識してもらい、地域活性化の財産としてまちづくりを活かす事例発表や議論とおし、珪藻土を核とした地域活性化について考えてもらおうと2月4日、市中央公民館で行われ、会場に集まった約100人の参加者が熱心に聞き入っていました。



「珪藻土の新たな活用による地域活性化」フォーラム

市では昨年5月、珪藻土等地域資源の新たな活用の研究及び製品開発を目指し、地域産業の振興を図ろうと、市と秋田大学、秋田県立大学、地域振興局、商工会、地元企業で珪藻土を扱う中央シリカ株式会社、昭和化学工業株式会

特性・活用 研究例

事例発表では、野口泰彦・昭和化学工業株式会社秋田工場長が「珪藻土製品の特徴と使用例」として多孔質で保温性に優れ、軽量の珪藻土の性質やろ過助剤など使用例を説明しながら珪藻土入り石けんや珪藻土入りタンブラーなどの製品を紹介しました。

続いて、村上英樹・秋田大学講師が「珪藻土の活用と今後の展開」として珪藻土の成り立ち、ヤマビル駆除剤などのこれまで確立したものや、金属シリコンの作製など



取組み状況を説明する 村上さん



リン吸着剤を説明する 日高さん

への活用など可能性などを説明しました。

また、日高伸・秋田県立大学教授は「珪藻土を配合したリン吸着剤の開発と利用」として珪藻



土を含んだリン吸着剤により水質を改善し、リン吸着廃ろ材を農地などに有効に活用する取り組み事例を報告しました。

「珪藻土の新たな活用による活性化」フォーラム

生産量日本一 地域の活性化へ

引き続き、関根紳仁・あきた企業活性化センターゼネラルマネージャーがコーディネーター、津谷市長、小川竜二郎・秋田大学准教授、奥田博昭・中央シリカ株式会社社長、松田正男・北秋田市観光協会専務、篠原康夫・北秋田WATOGA協同組合代表理事がパネリストとなつて行なわれたパネルディスカッションでは、日本一の生産量。これを利用して、地域活性化につ



コーディネーター 関根さん

津谷市長は「原材料として市外にでていくだけでなく、地域の産業として、珪藻土を活かした製品など関心をもった企業の方々もいると思うので連携していただきたい。珪藻土に対し若い方々も関心をもっていたら、将来に対して夢を与えていただくよう期待します」などと述べました。

奥田さんは、地元の小中学校との交流を紹介しながら「地域で育った子供たちが珪藻土や七輪がこうゆうものだ、昔からこの地域の珪藻土を使った七輪だと思ってくれれば、これからも珪藻土による地域との交流を続けていきたい」な



パネリスト・篠原さん



パネリスト・松田さん

一つでも開発できれば」ということで商工団体としてこれまで取り組んだ壁材やたくあんぬか床などの事例を紹介し、「単体で動いている事業を把握してファイナル化し、必要な人がいつでも使える方向に」と述べました。



パネリスト・奥田さん



パネリスト・小川さん

また、会場からは「畑にどれだけ珪藻土を使ったらいいか」などと質問が出されるなど、会場に集まった参加者が珪藻土を生かした地域活性化について意見を交わしました。

珪藻土とは

珪藻土は、藻類の一種である珪藻の殻の化石よりなる堆積物（堆積岩）です。珪藻が海や湖沼などで大量に増殖し死滅すると、その死骸は水底に沈殿し、死骸の中



▲ 珪藻土を使った七輪などの製品

有機物の部分は徐々に分解されていき、最終的には二酸化ケイ素を主成分とする殻のみが残ります。このようにしてできた珪藻の化石からなる岩石が珪藻土です。無数の細かい穴がある珪藻土は断熱性や調湿性に優れているため建材や保温材として、電気を通さないで絶縁体として、また適度な硬さから研磨剤としても使用されています。